

聖書の物語と私たち ⑳
南王国の預言者2

ミカ・エレミヤ
司祭パウロ鈴木伸明

預言者ミカ

ミカはイザヤとほぼ同時代に南ユダ王国で活躍した預言者です。

ミカはイザヤと同様に、紀元前8世紀後半のアッシリア帝国による北イスラエル王国の滅亡と南ユダ王国の属領化は、民の罪に対する神の審判と受けとめつつ、将来における回復を待望していたのでした。ミカ書5章1節には、ベツレヘムに生まれるメシア預言が記されています。

エフラタのベツレヘムよ、お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのために、イスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。

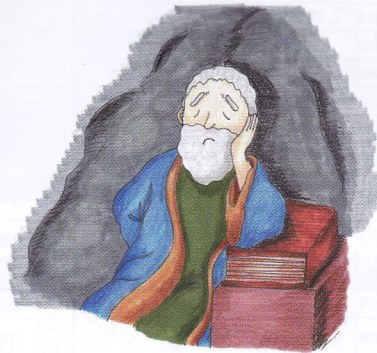
この箇所は、クリスマスイブ礼拝でよく朗読されるのは皆様もよくご存じの通りです。

ヨシヤ王の宗教改革と預言者
エレミヤ

ヨシヤ王の治世18年のことです。エルサレム神殿から「律法の書」が発見されました。これは出エジプトの旅の最後に、モーセが人々に告げ知らせた律法をことごとく書き記し

たもので、現在の申命記の主な部分であったと考えられております。ヨシヤは書記官シャファンに律法の書を読ませ、その言葉に衣を裂きました。先祖たちがこの律法に従わなかったので主の怒りが臨もうとしているように思われたからでした(列王記下22章11節から13節)。

さっそくヨシヤ王の宗教改革が始まりました。ユダとエルサレムのすべての長老たちが集められ、神殿において契約を結び、主に従って歩み、心を尽くし、魂を尽くして主の戒めと定めと掟を守り、この書に記されている契約の言葉を実行するのを誓ったのでした。民も皆、この契約に加



わります。このようなことから、ヨシヤ王の宗教改革を申命記改革とも呼んでいます。

ヨシヤは異教によって乱れていた地方の聖所を廃止してすべての礼拝をエルサレム神殿に集中し、「イスラエルの神、主」のみを唯一の神として礼拝するようにしたのでした。

さらにヨシヤ王はすべての民に命じ、主の過越祭(出エジプト記12章

参照)を祝いました。士師たちがイスラエルを治めていた時代からこの時まで、過越祭が祝われたことはなかったのです。

ヨシヤ王による宗教改革と前後して活躍を開始したのが預言者エレミヤです。エレミヤはヨシヤ王の宗教改革を全面的にバックアップしました。ところがヨシヤ王は、エジプトの王フアラオ・ネコの攻撃により戦死してしまい、宗教改革は頓挫(とんざ)することになってしまいました。

中塚 梢 画
預言者エレミヤ

ことになってしまいました。代わって王となったヨアハズ、その次のヨヤキムは主の目に悪とされることを行いました。紀元前601年、バビロンの王ネブカドネツアルは服従を要求するためエルサレム

に現れ、貢を要求しました。ヨヤキムはやむを得ずこれに従いましたが、3年後反逆します(列王記下24章1節)。このためネブカドネツアルは南ユダ王国攻撃を始めました。ヨヤキムは死んでその子ヨヤキンが王となりました。ヨヤキンはやはり主の目に悪とされることをことごとく行いました。3箇月後、ネブカドネツアルがエルサレムに登場したためヨヤ

キンは降伏し、ヨヤキンおよびエルサレムの有力な人々はバビロンに捕虜として連れていかれました。後に残ったのは国の貧しい者だけであつたと記されています(列王記下24章8節から15節)。これが第一回目のバビロン捕囚です。この時連れて行かれた中には、預言者エゼキエルも含まれていました。バビロン捕囚はこの後第二回、第三回と続くこととなります。

ヨヤキンたちが捕囚としてバビロンに連れて行かれた後、ヨヤキンの叔父であるゼデキヤがネブカドネツアルによって王とされました。ゼデキヤはやはり主の目に悪とされることをことごとく行い、やがてゼデキヤはバビロンにそむきます。そのためとうとうエルサレム陥落、すなわち南ユダ王国滅亡の時がやってきてしまったのでした。

紀元前587年のことでした。こうしてゼデキヤは南北分裂後約335年続いた南ユダ王国最後の王となったのです。このような中であつてエレミヤは最後まで預言者としての活動を続けていましたが耳を傾ける者はごく僅かだったのでした。エレミヤは民を愛しながらも迫害され続けた孤独な預言者と言えましょう。

(川越キリスト教会牧師)